

【解説 2-3】出水の経験についての過去の記録その他の必要な情報の調査

その土地で過去にどんな浸水被害が発生しているかどうかを調査することは、浸水の危険性を把握するために重要な事項である。

(1) 浸水実績

浸水実績図については、自治体が管理していることが多い。また、過去にしばしば浸水被害を経験している土地では、過去の災害の履歴を古くから住んでいる年配に聞くことも効果的である。このような土地では、浸水対策の工夫もなされていることがあるので、対策も含めて聞いてみる必要がある。また、既往の洪水により浸水のあった地域では図 2-10 のようにその浸水深を掲示していることがある。その他、洪水をうけた建物には浸水の痕跡（痕跡水位）が残っていることもある。



写真 2-2 既往の洪水による浸水位を掲示している事例（岐阜県大垣市）

(2) 水害誌

その土地の水害に関する災害誌（史）も出水の経験の調査に参考となる。図 2-11 は、京都市被害状況図「京都市の水害誌、京都市役所、S11.3.30」であり、被害箇所や浸水深が示されている。



図 2-10 京都市被害状況図（京都市役所、S11.3.30）

また、近年市街化された土地では、過去の浸水実績がわからないことが多いが、その土地の字名や古い地図にでている地名・呼名などから水に関係の強い地名があれば、浸水する可能性を調べる参考になる。「水害 - 治水と水防の知恵 - 、宮村忠、中公新書、S60」では、洪水と地名の関係について早稲田を事例にとりあげている。

早稲田の地名は、言うまでもなく早稲の田を意味している。早場米を出荷する地域である。早場米地帯は、一般に常習的な洪水氾濫地帯、氾濫を受けやすい地域である。いいかえれば、洪水氾濫を受けやすい地域は、早稲を選定して稲作農業を行なうことが多い。九月の上旬から中旬に台風の襲来が多い。

「地名と風土」第2号「気象・災害と地名」では、河川災害と地名について以下のような事例が取り上げられている。

ワダ	大洲市和田	ワダは曲(わ)処(だ)の意であり、山裾が湾曲していたり、河川が湾流している所の地名である。山麓がカーブしているワダで内カーブになっている地形は、豪雨時に山肌を流下する水はここへ集まってくるので、思わぬ浸水被害を受けることが有る。
クライ	徳島県吉野川 北島町新喜来	河川沿いの地名で、河川の内カーブ側につく地名。
ヒロ	広島県広島市	ヒロ地名の殆どが浸水被害の歴史を持っており、土地の人は「広いから」と信じ込んでいるが、古人はここを低地ですよと標示して浸水被害のあることを示唆している
シバ	東京都柴又	川が運んだ肥沃な土の堆積地を表しているが、河川に関する地名だから浸水被害はつきものである。
ゴミ	五味・五毛	谷川が吐き出す泥のことをゴミといって護岸災害が特徴

また、川がはん濫すると川の内になるところという意味で、河内、川内、高知、川之内、河之内等の地名がある。それ以外にも川や河、窪地、溜池などをイメージさせる地名には、既往の災害と地名になんらかの関係があることが考えられるので注意が必要である。